

報告書発刊にあたり

2008年、世界は政治、経済、社会が大きく激変した年である。

その主たる震源地はアメリカで、サブプライムローンに端を発した金融不況が世界各地へ飛び火し、同時不況へと広がり好調であったヨーロッパ、東アジアの実体経済をも揺がす世界恐慌的経済不況を呼びおこしている。

我が国でも、わが世の春を謳歌していた自動車産業をはじめ輸出産業が、軒並み円高、株安の影響で業績不振に喘いでいる。真に天変地異の状況で1年前には想像もつかなかった激変である。

また、雇用の関係では、非正規社員を中心に契約の打ち切り、雇い止めが相次ぎ、職を失う人々が多く出て大きな社会問題となっている。

我々の業界は、近年、成熟化産業となり、グローバル化、少子高齢化で需要が伸び悩み、それが原因で過当競争から単価下落を引きおこし、加えて原材料の高騰が出荷額を下降傾向へと押し下げた。

また、IT化の進展はパソコン、簡易印刷機の普及につながり、個人や企業の内製化、出荷額減少の原因となっている。

このような業容変化に対処するために、2008年業態変革推進プランを策定し啓蒙実践してきた。更に、2010年に向けて、実践のためのプランを充実させ、新時代に適応する印刷業の指針を作成し、計画の実行を推進している。

その印刷業界のIT化による技術革新、市場変化に対処し、明るく希望に充ちた業界に変革する第一歩として、独立行政法人雇用・能力開発機構岩手センターの認定を受け、2006年4月から3ヵ年間、中小企業人材確保推進事業に取り組んできた。

いうまでもなく、企業維持発展の最大の原動力は人材であり、強い会社には意欲と専門知識と技術力のある人材が不可欠である。

我々は、その重要課題に取り組み、個々企業と業界発展を期したいと考え、活動を続け成果を上げたと考えている。

印刷業界は、グーテンベルグが550年前、活版術を発明して以来、人類の文化の創造発展に多大な貢献を果たしてきた。ライフ誌に掲載された20世紀最大発明は何かとの問いに、世界のジャー

ナリストの投票で自動車や鉄道、電話などをおさえて、印刷が第1位に選ばれた。世界人類を発展させた大きな原動力が印刷であることが評価されたのである。情報伝達の最高の手段である印刷、この誇れる産業を維持し益々隆盛をきわめていくために、人材の確保、定着を目指してこの事業に取り組んできた。

そして、独立行政法人雇用・能力開発機構岩手センターの指導を得て、新しい視点に立った経営展開、高度で優秀な人材確保の条件を整備、労働条件の改善等々の活動を3ヵ年継続し、本年3月、一応の区切りをつけることができた。

その計画と実践の経過及び成果は、本書の中に記載されているとおりであるが、計画策定、調査にはじまり、雇用環境改善事業、採用活動改善事業を実施してきた。

雇用管理実態調査をはじめ、業態変革に関する経営実態の把握、また各種セミナーや研究会の実施、モデル企業見学、啓蒙ポスター作成、企業ガイドブックを作成し、学校等への配布、また、新聞紙上での人確事業や業界PRにつとめ、活動を行ってきた。

21世紀に向けて、製造業をベースに情報加工業産業へと転換していくことが業界の必然方向であり、若い人々がその業界に魅力ある業界ととらえ、多くの人材が就職を希望する業界に育て上げていかねばならないと考える。

今後、組合員一同、魅力あふれる業界、若さと豊かさが満々ている業界にするべく、なお一層の努力を重ね、この3ヵ年で得た貴重な体験と資料を今後の組合活動の指針とし生かしていかねばならないと強く決意するものであります。

最後に多大な助成と指導をいただいた関係各位、そしてこれを推進してきた人材確保推進事業委員に深甚なる感謝を申し上げます。

平成21年3月

岩手県印刷工業組合

理事長 吉田 幸一